

社会科学習指導案

指導者 山内 健

1 日 時 平成 25 年 10 月 23 日 (水) 第 5 校時 13 : 55 ~ 14 : 40

2 学 年 第 6 学年 11 名 (男子 8 名 女子 3 名)

3 学習指導要領の内容 (1) キ, ク

我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

キ 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。

ク 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。

4 単元名 明治維新から世界の中の日本へ「3 条約改正と中国・ロシアとの戦い」

5 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領社会科〔第 6 学年〕の内容 (1) のキ、クを受けて設定された単元である。

本単元では、まず、黒船の来航、明治維新、文明開化などの幕末から明治の初めにかけての歴史的事象を具体的に調べることを通して、我が国は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにする。そして、明治中・後期から大正期における、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かるようにする。

○ 児童はこれまでに、縄文時代から江戸時代中期までの我が国の歴史について学習しており、歴史的事象のつながりの必然性について考えてきた。特に、中心になって政治を行ってきたのは誰であるのかを意識しながら時代の流れを見てきており、政治を行う者の思惑が、その時代の社会情勢に反映されることを学習してきた。

資料の読み取りや自分なりの考えをもつことについては、絵や写真、グラフ、表などから、気が付いたことや疑問に思ったことをできるだけたくさん見つけようとする児童が多い。しかし、自分の考えを発表することには抵抗のある児童もいる。また、表面的な読み取りで終わってしまう児童も多く、複数の資料や時代背景を関連付けて思考を深めていくことには課題がある。

社会科についてのアンケートでは、「社会科の学習が好き」と答えている児童は 9 人で、そのうち 8 人は歴史が好きと答えていたが、人物や出来事の名称を覚えることが苦手な児童も多く、そのことを社会科が嫌いな理由に挙げている児童もいた。

○ 指導にあたっては、児童に「おもしろそうだ。」「解決してみたい。」という思いや意欲をもたせる

ような学習課題を提示したい。そのために、資料と発問を精選して、700年余り続いた武士の世の中が終わった背景と新しい時代の始まりをイメージさせたい。単元のはじめでは、黒船来航の錦絵を見て気付いたことや思ったことを書かせる中で、江戸時代は鎖国をしていた時代であることと関連させながら、当時の人々の様子を想像させ、日本がその後どのように変わっていくかを考えさせる。江戸時代や現代と比較しながら明治維新について調べる活動を行うことで、明治維新の劇的な社会変化についても意識させたい。また、幕末から明治にかけての学習では、多くの人物が登場してくるので、それぞれの人物の関係を押さえながら、人物の働きを通して歴史的な事象をとらえることができるようにしていきたい。

本時の学習では、幕末に江戸幕府が結んだ不平等条約改正の経緯を調べ、条約改正に成功した理由を考えさせていくが、そこにはそれまでに学習する日本の近代化が大きく寄与している。そこで、条約改正までの歩みをまとめた年表と日本が近代化を進めたことがわかる既習資料を提示することで、条約改正の要因に迫りたい。授業の導入においては、ノルマントン号事件の風刺画を読み取らせ、事件の概要を押さえることで、不平等条約改正の必要性を感じさせ、「調べたい。」という意欲につなげていきたい。

6 単元の目標

- 幕末から明治維新につながる世の中の動きや、新しい文化や外国との関係の変化、産業の発達と日清・日露戦争での勝利などについて調べ、世界のなかの日本として近代化が進められたことを理解できるようにする。
- 幕末から明治維新にかけての大久保利通や板垣退助などの近代化に努めた人々の働きや、政治や社会の仕組みの変化などについて、関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究することができるようにする。
- 幕末から明治時代にかけての近代化の進展について、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を活用し、調べたことや考えたことを適切に表現する力を育てるようにする。

7 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日本の近代化の進展と近代化に努めた人々の働きや、外国との関係の変化などについて関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究している。	日本の近代化の進展や政治・社会の仕組みの変化などについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、日本の近代化の進展や政治・政治・社会の仕組みの変化などについて考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。	日本の近代化の進展や近代化に努めた人々の働きなどについて、資料や年表などの各種の基礎的資料を活用して調べ、調べたことをノートや作品にまとめている。	日本の近代化が進められた過程やそれにともなう政治や社会の仕組みの変化、産業の発達と外国との関係の変化などをとらえている。

8 指導計画（全13時間 本時10/13）

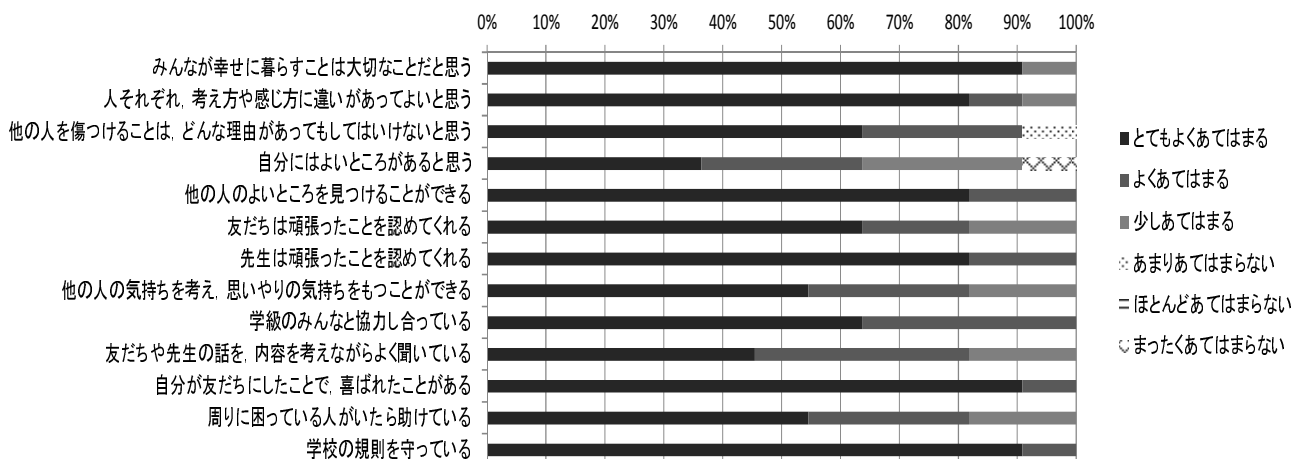
次	学習内容（時数）	評 価				
		関	思	技	知	評価規準
一	○中単元の導入（1） ・学習課題をつかみ，学習計画を立てる。	◎				・黒船来航の絵図から，外国との関係や国内の動きについての学習問題を見出し，学習計画を立てている。
	○黒船の来航と鎖国の終わり（1） ・黒船来航に関心を持ち，鎖国を終わらせた背景について調べる。	◎				・黒船来航について関心を持ち，意欲的に調べ，考えながら追究している。
二	○幕府の政治の終わり（1） ・民衆の不満を背景にして，天皇中心の国家をつくる運動が，武士の世の中を終わらせたことをとらえる。		◎			・世の中の様々な動きに問題意識をもって調べ，調べたことをもとに，開国から倒幕までの状況を考え，適切に表現している。
	○新政府の新しい国づくり（1） ・四民平等とされながらも，身分の違いが別の形で残されたことを調べる。	◎				・新しい国づくりに活躍した人々に関心を持ち，明治政府の諸改革を意欲的に調べている。
	○豊かで強い国をめざして（1） ・富国強兵策について，明治政府がそれらを押し進めていった理由や，国民生活に与えた影響について考える。		◎			・富国強兵の内容や国民生活への影響について意欲的に調べ，国民の気持ちや行動について考え，自分なりの意見をもつことができる。
	○板垣退助と伊藤博文を調べる（1） ・人物調べを通して，自由民権運動がおこった社会的背景や明治政府が国会開設を約束した経緯，当時の世相などについて考える。		◎			・自由民権運動がおこった理由を当時の人々や政府の考え方との関係から考え，適切に表現している。
	○憲法の発布と国会の開設（1） ・憲法が制定されて立憲政治が確立されたことや，国民の政治参加の面では不十分であったことをとらえる。				◎	・自由民権運動により，憲法の制定や国会の開設が行われたこと，大日本帝国憲法は天皇中心の憲法であったことをとらえている。

	○中国・ロシアと戦う（1） ・日清・日露戦争の結果，日本の国際的地位が向上し，朝鮮半島に勢力を拡大したことをとらえる。				◎	・日清・日露戦争の結果，日本の国際的地位が向上し，朝鮮半島に勢力を拡大したことをとらえている。
	○近代産業の発達，世界でかつやくする日本人々（1） ・産業の発達とともに，働く人や公害の問題がおきたことや，世界で活躍した人々が出た背景をとらえる。	◎				・産業の発達の様子やそれにもなう社会の変化，世界で活躍した人々について関心をもち，意欲的に調べている。
	○不平等な条約を改正する（1） ・政府が条約改正に努め，欧米諸国との対等な関係の構築に努力したことをとらえる。（本時）		◎			・不平等条約が改正されてきた過程と国際社会の中での日本の地位の変化との関連をつかんでいる。
	○日露戦争後の朝鮮，日露戦争後の世界の様子（1） ・韓国を併合した前後の日本の政策や朝鮮の人々の様子を調べ，当時の朝鮮の人々の気持ちを考える。		◎			・韓国を併合した前後の日本の政策や朝鮮の人々の様子を調べ，当時の朝鮮の人々の気持ちを考えている。
	○明治・大正時代を生きた人々（1） ・当時の社会運動について調べ，人々がどのような願いをもち，どのように努めていたのかなどを考える。	◎				・明治・大正時代を生きた人々の願いや努力について興味をもち，意欲的に調べている。
三	○たしかめよう（1） ・幕末から明治・大正時代について学習したことをまとめ，交流して自分の考えを深める。			◎	○	・幕末から明治・大正時代の主な出来事をまとめている。 ・自分の考えを明確にして話し合い，考えを深めている。

9 人権教育における視点

自他のよさや違いを生かし，つながり合い，ともに高め合う児童の育成
～自分の考えを伝え合い，学び合う授業づくりの工夫を通して～

1学期に実施した人権アンケートの結果は以下のようになり，ほとんどの項目で肯定的な回答をしていた。しかし，「自分にはよいところがあると思う」という項目では，他の項目に比べて相対的に肯定的な回答が少なく，まったくあてはまらないと回答した児童も一人いた。



社会科の授業についてのアンケートでは、「友達の考えを聞くのが楽しい」と答えた児童は10人で、その主な理由は、自分の気付かない考えを聞くことができることであった。「友達の考えを聞いてよかったと思うことがありますか」、「友達の考えを聞いて話し合うのが楽しいですか」という項目では、いずれも8人の児童が「ある、楽しい」と肯定的に答えており、その理由としては、分からないことが分かるというものが多かった。

本時の指導では、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れることで児童が自分の考えを発表する場を保障し、グループごとに考えたことを全体で交流する形態をとることで、協力して課題解決にあたらうとする意欲を喚起するとともに、自己有用感を感じさせたい。

人権尊重の理念 自分を大切にし他者を大切にしてい共に生きていく

人権教育の視点	本時で目指す姿	工夫・手立て
自分を大切にする 自分の考えをもつ	<ul style="list-style-type: none"> 条約改正に成功した理由を考えて、ノートに書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 視点を示すことで、事象を多面的にとらえさせる。 条約改正までの50年間に、日本ではどんなことがあったのかを確認する。 日本の近代化に向けた一つ一つの事象が、外国から見るとどのように映るのかを考えさせ、それらの事象と条約改正のつながりを考えさせる。 考えをもつことが難しい児童には個別指導を行い、どうすれば外国から認められるのかを考えさせる。
他者を大切にする 伝え合い、 学び合う	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明している。 友達の考えを受容的に反応しながら聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習の仕方のモデルを示し、活発に話し合いができるようにする。 個人で考えたことをグループで話し合いをさせ、それぞれの考えをグループでまとめさせる。

10 本時の学習

(1) 本時の目標

ノルマントン号事件をきっかけにした世論の高まりの中で、条約改正が実現していった経緯を調べ、日本が国際的地位を高め、国力を充実させていったことをとらえることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 観点別評価規準

不平等条約が改正されてきた過程と国際社会の中での日本の地位の変化との関連をつかんでいる。【思考・判断・表現】

(3) 準備物

ノルマントン号事件の風刺画（資料①） 条約改正までの歩み（年表）（資料②）

既習の資料（岩倉使節団の写真 明治時代の東京の様子 文明開化による世の中の主な変化 国会の様子 大日本帝国憲法の発布式 鹿鳴館 富岡製糸場の様子 日清・日露戦争の様子 世界で活躍する日本人）

(4) 学習の展開

過程	学習活動	指導上の留意点（○）と支援（◇）	評価規準（方法）
つかかむ	<p>【課題設定】</p> <p>1 ノルマントン号事件の概要を知り、風刺画を見て気付いたことを話し合う。</p> <p>絵（資料①）を見て、気付いたことを発表しましょう。</p> <p>2 船長が無罪になった理由を考える。</p> <p>イギリス人の船長はどうして無罪になったのでしょうか。</p> <p>3 条約改正までの歩みを知り、学習課題を確認する。</p>	<p>○ 船長や船員（イギリス人）は救助の意思がないことに気付かせる。</p> <p>考えをもたせる工夫</p> <p>◇ 今の日本の感覚からは「おかしい」ことを感じさせ、背景を知りたいという意欲につなげる。</p> <p>○ ノルマントン号事件の背景には、幕末に江戸幕府が外国と結んだ不平等条約があることに気付かせる。</p> <p>○ 条約改正までの歩み（資料②）を提示して、明治政府はすぐにでも条約の改正をしたかったが、改正までに約50年かかったこと、日本の近代化の遅れが条約改正を遅らせた原因の一つであることを確認させる。</p>	

条約改正に成功した理由について考え、説明しよう。

【個人思考】

4 既習事項や各種資料をもとに、条約改正の要因について考える。

これまで学習してきた明治政府の国づくりや出来事から、条約を改正することができた理由を考えましょう。

考えをもたせる工夫

- ◇ 視点を示すことで、事象を多面的にとらえさせる。
- ◇ 条約改正までの50年間に、日本ではどんなことがあったのかを確認する。
- ◇ 日本の近代化に向けた一つ一つの事象が、外国から見るとどのように映るのかを考えさせ、それらの事象と条約改正のつながりを考えさせる。
- ◇ 考えをもつことが難しい児童には個別指導を行い、どうすれば外国から認められるかを考えさせる。

考
え
学
び
合
う

- 既習事項をもとに、「政治」「軍備」「産業」「文化」などの視点から、条約改正の理由を考えさせる。
- 鹿鳴館が建てられた目的について説明し、日本が外国にどのように見られたいと思っていたのかを考えさせる。

【集団思考】

5 個人で考えたことを、根拠を示しながら説明する。
(グループ → 全体)

発言をつなぎ、考えを深める工夫

- ◇ グループ学習の仕方のモデルを示し、活発に話し合いができるようにする。
- ◇ 個人で考えたことをグループで話し合いをさせ、それぞれの考えをグループでまとめさせる。

・不平等条約が改正されてきた過程と国際社会の中での日本の地位の変化との関連をつかんでいる。【思考・判断・表現】(ノート)

<期待したい児童の反応>

- C: 廃藩置県や四民平等などの新しい国づくりを進めたことで、アメリカやヨーロッパに認められ、条約改正につながったと思います。
- C: アジアで初めて憲法を作り、憲法に基づいて政治を行う国になったので、外国から信用してもらえるようになり、条約改正につながったと思います。
- C: 徴兵令により軍隊を強くし、日清・日露戦争に勝ったことで、アメリカやヨーロッパに認められ、条約改正につながったと思います。
- C: 官営工場を作ったり地租改正で決まった額の税金を集めたりしたことで、お金も増えて国が豊かになり、世界で認められ、条約改正につながったと思います。
- C: 学校をつくって教育に力を入れたことで、世界で活躍する科学者がたくさん出てきて、日本の素晴らしさが認められ、条約改正につながったのだと思います。

ま と め る	<p>【まとめ】</p> <p>6 本時の学習をまとめ、振り返りを書く。</p>	
	<p><児童のまとめ例></p> <p>○ 条約改正に成功した理由について考え、説明する。</p> <p>C： 日本が不平等条約を改正することができたのは、明治政府がさまざまな改革を行ったことで、日本の国際的な地位が高まり、アメリカやヨーロッパの国々と対等な立場に立つことができたからです。</p>	<p>○ 本時の学習のまとめを書かせ、欧米諸国と対等的な立場に立った日本が次のようなことをしていくのかを予想させる。</p> <p>○ 自分の考えと友達の考えを比べて学びがどのように深まっていったかという観点で振り返りを書かせる。</p>

(5) 板書計画

